２．　評　価　結　果　（詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、その実現に向けての取り組みができている。また、わかりやすく掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービス活動場面において言葉かけや態度面等に理念が反映されている。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しているが、事業所自体が地域の一員として、地元の活動や地域住民との交流に積極的な取り組みが見られない。	○	地区の子どもたちをホームに招き認知症を正しく理解する場面作りをして行くことも一つの例として期待される。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員とも評価の意義を理解し、外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は２か月に１回確実に行われ、利用者の状況等を報告し、そこでの意見をサービス向上に生かしている。更に運営推進会議の記録も見やすい所に掲示されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市の担当窓口に対して、ホームの実情やケアサービスを伝える取り組みが消極的である。	○	管理者やケアマネージャー等は行政との日常的な行き来があるため、ホームをアピールする機会も大いに作られることを期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの行事は３か月に１回「ホームだより」を発行し報告している。 金銭管理は個人ごとの出納帳が整理され、使途は毎月“お小遣い残高証明書”により報告されている。さらに、入金の際に署名をいただいている。また、“残高証明書”の下の欄に生活の様子を記入し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出された意見や要望は、職員会議等で検討し家族に説明する仕組みができている。また、これまでの関わりの中で家族は併設の老人保健施設の支援相談員への相談もでき、意見を反映できる仕組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際してはその都度、利用者に説明し、職員の異動が最小限になるよう、職場環境の整備にも努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修とは別に、職場内の会議を含めた勉強会を毎月行い、情報の共有化等に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との合同運営推進会議を行い、また、同業者との勉強会に参加する等、横の連携を取りながらスキルアップに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用希望者に来てもらったりして、徐々にサービスの場になじみながら利用に移って行けるような支援の取り組みができている。		必要に応じ事業所からも環境調査等を含めて訪問して行くことも必要と思われる。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごし、方言や料理等を学び支えあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者の一人ひとりの思いや意向について関心を払い、日々の関わりの中で声かけするなどし把握に努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者と家族の希望を取り入れ、利用者の課題別に長期、短期目標を設定し具体的な支援内容になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の状況は個別に記録されていて、利用者の状況に応じ適切に計画の見直しをしている。また、介護計画書は３か月ごとの見直しができている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民や利用者が求める認知症対応型通所介護、短期利用共同生活介護などの指定も受け多機能性としての体制を整え支援の取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の関連協力医の外、本人や家族が希望する掛かりつけ医での医療を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けての対応指針を定め、家族、医師の外、関係者を交えての話し合いをし、全員で方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用契約書に「尊重・プライバシー・尊厳」を維持することが明記され、これに基づく勉強会も行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活が、事業所の業務スケジュールに合わされている様子はない。一人ひとりの体調に配慮し、その時の本人の気持ちを尊重し個別の支援ができている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と共に食事を取っているが、同じ料理ではなく弁当やその他のものを食べている。	○	職員が同じ食卓を囲み同じものを楽しく食べる事が大切と思われるので、引き続き検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のニーズに合った入浴方法が摂られ、残存機能を生かした入浴介助がなされている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画書にも個別の楽しみごとはうたってあり、食事の後やさまざまな片づけについても、利用者が自ら取り組めるよう支援ができている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿っての外出支援が実施され、事業所の方針としての前向きな外出支援もできている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解し、日中玄関は自由に出はいりできるよう施錠はされていない。		玄関のセンサーは状況に合わせ、こまめに操作をされるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	老人保健施設等に併設されているため、消防法上、災害対策は全体で取り組んでいる。年２回の消防訓練と夜間を想定した訓練・職員連絡網による通報訓練も実施されているが、地域住民と一緒になった訓練の取り組みが進まない状況にある。	○	地域住民に継続して声掛けを行い、災害対策の体制が進んでいくことを期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の介護老人保健施設の栄養士とも相談し、食べ物や水分の摂取量等はチェック表を使用し、摂取確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や季節感を取り入れた置物等は、利用者の生活をゆったりと、そして楽しくさせる工夫が見られ、共用空間もくつろげるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には名札が掲げてあり、居室には使い慣れた愛用品を持ち込み生活環境の適応に努めている。		居室の『戸』にわずかではあるが透明な部分があるため、目隠しされるなど検討してほしい。

※ ▒ は、重点項目。